

福岡忠雄教授退職記念号発刊に際して

2011年3月をもって、私たちが敬愛する福岡忠雄教授をお送りすることとなりました。先生は1998年に関学にご着任され、以来13年間にわたり、教育、研究、大学運営のすべての側面において、英文学科、および学部改組後の英米文学英語学専修の実質的かつ精神的支柱としてお働きいただきました。つねに揺るがぬ正論を、毅然とした姿勢で述べられ、かつ実行に移される先生の真摯なお姿に、私たち教職員と学生はこころより敬服し、そして、慕っておりました。このたびご定年をお迎えになるにあたり、きわめて残念かつ名残惜しく思っております。これまで私たちをお支えくださったことにたいして、篤くお礼申しあげます。ここにひとつの節目として、福岡教授を慕う方々がつどい、『英米文学』第55巻を福岡教授のご退職記念号として刊行し、献呈申しあげる次第です。

福岡教授の話題の豊富さ、引き出しの多さについては、あらためて述べるまでもなく、誰しもご存じのことでしょう。大学キャンパスの内外を問わず、老若男女を問わず、組織の壁にもとらわれず、活発な意見交換を好まれる自由闊達な先生のお人柄に魅かれて、その場に居合わせた者全員が、刺激的なやりとりを愉しむことができました。ご専門のトマス・ハーディ論のみならず、批評理論、文学論、大学論、そして四方山話に至るまで、いつもの確に議論を展開される先生のお姿が、強く印象に残っております。教え子たちも、学問の師として、人生の先達として、さまざまに学ばせていただきました。あらためて深い感謝の意を表したいと思います。

これからは、お好きな読書と研究にご専念なさる日々になろうかと存じます。くれぐれもお健やかに、そしてますますのご活躍をなされますよう、私たち一同、こころよりお祈り申しあげます。

2011年1月10日

英米文学会会長
英米文学英語学専修代表

橋 本 安 央